2011年2月

自動たん吸引システム

「大分発」の医療機器

国の認可受け事業化

患者、介護者の負担軽減

システムを開発、事業化した（左から）山本真大分協和病院長、徳永修一徳永装器社長

大分県内の医師グループと地場企業などが協力して開発した「自動たん吸引システム」が国の認可を受け、「大分発」の医療機器として注目を集めている。人工呼吸管理が必要な患者のたんを苦痛を感じさせず除去でき、介護者の負担も大幅に解消できる。2006年、県ビジネスプラングランプリで最優秀を受賞した事業化計画を実現した。

同システムは箱型のたん吸引器と、吸引ホースの先に装着して気道を確保するためのチューブ「気管カニューレ」の組み合わせ。昨年5月、薬事法に基づく厚生労働省の認可を受けて、既に販売を始めている。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの難病患者の在宅医療に携わる大分協和病院（大分市）の山本真院長がシステムを提案。介護・医療機器を製造販売する徳永装器研究所（宇佐市、徳永修一社長）が依頼を受け、吸引力が強く安定したポンプを開発した。

県内の患者らの協力で試作とテストを繰り返して実用化。その事業化計画は5年前のグランプリで最優秀賞を受賞していた。その後も機器の改良を重ね、患者の気管を刺激せずにたんを吸引できる新構造のカニューレは東京の医療器メーカーに製造委託した。

徳永社長は「ポンプは枕元に置いても気にならない音に抑えた。製品化に11年かかったが、さらに性能を高めたい」と意欲的だ。自動吸引器は価格16万円（税